

商学部創立50周年に寄せて

専修大学長 矢野 建一

専修大学商学部が本年で創立50周年を迎えました。50年もの歴史を刻む中には諸先達の商学教育・研究に対する情熱と真摯な取り組みがあり、多くの関係者のご尽力によって着実に発展を遂げてまいりました。あらためて敬意を表するとともに、深く感謝いたします。

専修大学に一部商業学科および二部商業学科を有する「商学部」が創設されたのは1965年（昭和40年）ですが、その起源を辿ると、1905年（明治38年）の「商科」創設まで遡ることができます。1917年（大正6年）には、現在の会計学科の前身となる計理科が新設され、企業会計の発展に貢献した計理士を数多く輩出しました。「計理の専修」というフレーズが示すとおり、本学で商学を修めた卒業生によって、近代日本における商業の屋台骨が支えられたと言っても過言ではないでしょう。その伝統は現代にも引き継がれ、例えば公認会計士試験においては、直近5年間（平成22年～26年）で74名もの本学出身合格者を輩出しております。この実績に、現在の会計学科の教育研究が大きく寄与していることは間違いありません。

また、2006年（平成18年）には、商業学科を基礎として、現在のマーケティング学科が誕生いたしました。商学部の教育理念、つまり広い視野からの「ビジネス・マインド」の養成に沿ったかたちで教育が行われており、その成果は学外で開催される各種コンテストやコンペティションでの多数の上位入賞などからも窺い知ることができます。

現在、専修大学は21世紀ビジョンとして「社会知性の開発」を掲げております。これは、グローバル化の拡大や異文化交流の進展、情報化の加速、少子高齢化の進行など、現代に生きる我々が取り組まなければならない課題が山積する中、これらの社会的課題を解決するために、地球的視野から諸問題を捉える力、創造的発想力、さらには深い人間理解や倫理観を有する有為な人材を育成しようとするものです。これを実現するためには、その一翼を担う商学部のさらなる発展が不可欠です。他学部在先駆けて専門科目の Semester 制度を導入するなど、進取の気性に富んだ商学部の今後の躍動に大いに期待しております。

末筆ながら、引き続き関係各位の皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。